



# 新生兵庫友の会

発行:新生兵庫友の会  
〒650-0023  
神戸市中央区栄町通  
4-2-18 キンキビルデ  
ィング5階  
TEL:(078)362-1700  
FAX:(078)362-1706

## きずな No. 82

平成21年1月20日(火)

ホームページ <http://www.idotoshi.net> Eメール [ido@idotoshi.net](mailto:ido@idotoshi.net)

## 9回目の全山縦走

兵庫県知事 井戸敏三

### 〔練習〕

今回は本当に自信がなかった。というのは、2回、しかも半日ずつしか練習していなかったから。最初の練習は9月20日だったが、須磨浦から摩耶山を目指したのだが、高取山で本当に消耗してしまい、かろうじて鶴越までたどり着いたていたくらいだった。原因は判っている。何より前日の深酒が過ぎているから、とは思ったものの、上り坂が続くとてきめん、体が自然の反応をしたといえる。このときも高取山の前の石段はかなり簡単にいけたのに正直なものだ。

二回目は、鶴越から摩耶山をめざして、このときは前夜気をつけたこともあり、少しからだがかかったが何とか菊水、鍋蓋、市が原、摩耶、青谷、新神戸までかなりのスピードでこなすことができた。しかし、何度登ってもきつくつらい山登りの醍醐味を味わえるのは菊水山だ。登り口に看板がある。「これより山頂900m」と書かれてあり、「よし」と発奮するのだが、約20～25分間の登りづくし。私は休憩をとらないように気をつけている。

遅くてもよい。ウサギとカメとのタイプがあるとすれば、必ずしもウサギが早くはない。実感している。カメスタイルで休まず弛まず一步一步を積み上げた方が結果として早いことが多いのだ。何故か。息切れして例えば3分休憩したとする。その間カメスタイルは一步一步積み重ねている。100や200メートルくらいはすぐに追いつき追い抜かれてしまう。今回も、六甲分岐点から下りの宝塚までの間、小グループを2～3ほど追い抜いたが、大平山のいつものように休憩する道路沿いで休んでいるうちに抜かれてしまった。カメは強い。

### 〔スタート〕

今回は、スタート地点に行ったのが午前4時半であったが、すでに列は坂道を下りきって2号線歩道まで連なっていた。県庁チームの仲間が待っていてくれたので、それでも中間ぐらいに並ぶことができた。スタートは5時からだったが、私たちのスタートは5時22分になってしまった。

### 〔渋滞〕

このスタートの10分程度の差が大きく影響してくることになる。須磨アルプスと高取山、その前の階段での混雑がまさしく昨年と比べて20分程度遅れを作ってしまった。しかし、渋滞もいいこともある。高取山や菊水山など縦走の難所がいくつかあるが、自然と休み休みしながら登ることができるので、私のように登りが苦手な者にとってはエネルギーの消費が少なくて助かるということもある。しかし、少し遅すぎたといえるか。

### 〔摩耶山頂〕

摩耶山頂の掬星台に着いたのが1時過ぎ、結果として再スタートは1時20分頃となってしまった。しかし、頂上でのボランティアの皆様のホットレモンの美味しいこと、疲れが一気に取れる思い。感謝します。山歩きには水分の補給とエネルギーの補充が欠かせない。既に出発時からスポーツ飲料500ccを2本持っていたが、市が原までになくなり、お茶を1本補充したが、これも食事で飲んでしまい、またお茶と水を補充した。それに、体力が極度に落ちてくるとおにぎりも喉に入らない。既に菊水山山頂で1個食し、鍋蓋山でミカン1個を、市が原でビタミンゼリーを食べていたが、摩耶山頂ではおにぎり1個しか入らなかった。せつかくのおかずも卵焼き二切れのみ。これからは思いやられる心境だった。

### 〔六甲山〕

これから六甲最高峰の先の宝塚へ下りる分岐点まで延々歩かねばならない。3分の2が自動車道のアスファルト道、3分の1が山道であるが、摩耶山にまでかろうじてたどり着いた身としては、この山道での坂道のきついこと。アゴニー坂の下り道の風化花崗岩の入り交じった急峻な道には膝が踊りかねない。また、丁字ヶ辻までの登りは、へトへトにな

っているだけにものすごく厳しい。今回は、例年、陵雲台の六甲ガーデンテラスでソフトクリームを食べるのだが、20分の遅れを取り戻すために我慢することにした。そのかわり、大変うれしかったのが、六甲山郵便局の甘酒サービスだった。去年は、郵政民営化の一環として例年の甘酒サービスがなかったもので、たいへんがっかりしていたが、今年は復活していた。誠に感謝。栄養補給、2杯もいただいた。このように沿道で激励を受けることは大きな励みになる。

#### 〔分岐点から〕

分岐点からは下りがほとんど、石ころごろごろの山道である。約12kmだが、これを例年は2時間で下りている。今年はどうか。やはり体力が残っているかどうかの勝負である。しかも、暗くならないうちにどこまで下りることができるか。去年は1月11日の前半参加だったので、日没時間まで少し間があったが、今年は23日だから暗くなるのが早い。途中でライトの点灯をせざるを得なかった。ライトといえば3～4年前までは、最終チェックポイントが一軒茶屋の近くにあつて、点灯テストに合格しないと分岐点から宝塚へ下ろしてくれなかったのだが、今はチェックがなくなっているのか、この2～3回チェックを受けていない。ともかく、ライトの視野は狭いので、しかも石ころまぶれ、急峻な箇所もあるとなると、飛ばせないのは当然である。とくに、宝塚の塩尾寺までの500mほどの下り道は、大きな石の間を縫うように下りていくのだから余程注意していないと大けがをしかねない危険を潜めている。六甲最高峰から1000mを一気に下りていくのだから当然そのような箇所がいくつかあってしかるべきだ。

#### 〔塩尾寺〕

塩尾寺からの下りは淡々としたアスファルト道。しかしこれがくせ者なのだ。特に足がパンパンに張ってしまい、坂道を真っ直ぐに下りようとすると筋肉が伸びてくれず、足が前後に進んでくれなくなる。このときは、奥手ならぬ後足でバックしていくと何とか歩ける。私の第1回目の縦走の時はまさしくそうであった。坂道を普通に歩いて下りれない。それだけ疲労が蓄積されてくるからだろう。第2回目以降は、今回も含めてこのようなことにならないのは、身体が体験で学んでくれているからか。

#### 〔ゴール〕

ゴールは宝塚大橋のふもと、ちょうど「若水」ホテルの前になる。今年も兵庫県山岳連盟の中島さんと神戸市の大森観光監が迎えてくれた。認定書を

もらい、記念の楯、今年はヤブツバキの花であった。私も9つの楯を集めたことになる。まあ、頑張ってきたものだ。仲間と六甲縦走記念の看板の前で集合写真を撮った。さぞやくたびれた顔をしていたことだろう。

今年もうれしいことは、宝塚のJ Cやボランティアグループの皆さんが、足湯と甘酒と炭酸せんべいの提供サービスを行ってくれていた。49度の足湯に疲れた足をつけるとキーンと頭まで温まり、疲れが吹っ飛ばすように感じる。甘酒は身体全体を温めてくれる。炭酸せんべいは甘味補給だ。いずれもゴール、宝塚の人たちが、神戸市主催の六甲縦走に協力して、完走者を歓迎してくれているのだ。地域連携も自主的にここまできたと感慨深い。

#### 〔山登りを何故〕

それにしてもどうしてそんなに辛い厳しい苦しい思いをして六甲縦走などに臨んだのだろう。登山家のマロリーは、数十年前エベレストで遭難して行方不明だった。数年前遺体が氷河とともに出てきたが、彼は「そこに山があるからだ」と言ったという。さしずめ、「そこに六甲山があるからだ」と言えばよいのだろうか。

苦しい登りを一步一步積み重ねて山頂を極めたときの達成感は何事にも代え難い。もちろん、山頂から四方を臨む景観そのものも何にも代え難いが、360°パノラマは大自然の懐から街々を眼下に臨んでその雄大さやスケールに圧倒される。そのことに加えて、自分が気力と体力をふりしぼり、耐え抜いて頂上にたどり着いたという自己実現がきっと大きな満足感を与えてくれるからだろう。

9回目の縦走達成を主催者の矢田神戸市長にしたところ、以前は10回目の記念の楯は一回り大きな立派なものだったとのこと。もっと早く達成できていればなと少し残念な気もするが、楯のために歩くのではないし、10回目の縦走達成の成就感を味わうために、よし、来年も10回目を目指して頑張ろう、とまた決意している。

## ゴルフ雑感

(神戸市) 林 忠正

第21回ゴルフ同好会コンペが、去る11月26日、名門の六甲国際GC(西コース)において絶好のゴ

ルフ日和で開催され、入会4年目で初優勝することができました。有難うございました。

私とゴルフとの出会いは30数年前に上司に進められた(むりやり)のがキッカケで、コースを予約したから、用具をそろえて練習しておくように言われ、義兄のクラブを借りて、靴、手袋、ボールを購入し、練習場に行き100球も打つと手に豆が出来てしまいました。それでも、3回ほど練習場に通い、いざコースへ、第一球はソケット気味のチョコロ、それからは、クラブを3本ほど持ってボールを追いかけて走りまわったのが初ラウンドでした。

ゴルフが面白くなりだしたのはハーフ50が切れたころからで、次は100をきるのが目標になり、練習するようになりました。

今では、私の数少ない趣味の一つです。感謝しております。

皆様方には本年もよい年でありますようお祈り申し上げます。

## 出石での田舎暮らし

(神戸市) 山崎 五男

秋祭りに帰郷した時、「退職後は出石に帰りたい」との話を出すと、早速、庭付き一戸建と農地が貰えることになった。うれしい反面、限界集落まではいかないとしても若者が少なくなり、だんじりの担ぎ手が不足するなど大変厳しい農村生活らしい。

豊岡市の農村状況を統計で見ると、この10年間(1995年～2005年の農林センサス統計)で、農家数は26%減少し、農家の65歳以上の割合は12.2%増加し7割を占め、販売農家のうち後継者がいない農家が52%と半数以上になっている。耕作放棄地は257ha増加し、全耕作面積の7.3%占めている。外国から安い農産物が入り、米価は75%下がる反面、肥料や農機具代は資材高騰の影響等をうけて値上がりしている。米の消費も増えないので、まだまだ減反政策も続く模様である。

兵庫県では、農業の持つ緑・水などの公益機能を農政に生かすため「農政環境部」に改組、補助金施策から所得補償施策への転換、大型機械化導入のための大規模ほ場の整備、環境を生かした付加価値の高いコウノトリ育む農法の支援、集落営農活性化塾など優れた農業担い手リーダーの育成、美味しいご飯を食べる県民運動など積極的に展開している。

しかし、若者が農村を離れ、農村が衰退し、村人の心をひとつにしていた「祭り」、農繁期の助け合い活動の「結い」、冠婚葬祭の時に食べた「郷土料理」など暖かい村文化が崩壊するのは、田舎生まれの私には大変悲しいことである。

そこで来年の今頃私は、出石で楽農生活をしているかも知れない。幸い、子どもは皆独立し、妻は他界しているので反対する人はいない。パチンコや麻雀、囲碁や将棋、夜景やワイン等神戸の楽しみも離れがたいので、季節毎に神戸と出石に住み分ける「0ターン」生活である。ドイツではクラインガルテン、ヨーロッパでは「園芸は趣味の王様」と言われ、日本では「雨読晴耕」かな。

イチゴやミニトマト、ブロッコリーや赤カブなど園芸作物を中心に、まず私の食べたい安全な野菜を栽培する。食べきれないものは、親戚や近所に配ったり、子どもに宅配し、さらに、増産できれば、出石の観光客相手の「朝市」に出してみる。ソバやさつまいもを栽培し、近所の子どもや弘道小学校に無料解放してみたい。

その準備でもないが、5年前から市民農園で園芸作物を栽培し、みどり公社主催の楽農センター「駅前講座」に参加し、県農業会議で農業支援施策も少し学んだので、それを故郷で生かしてみたい。

住民票を出石に移し、田舎の顔に戻り、朝夕仏壇に両手を合わせ、犬との散歩を楽しんだり、鶏や小鳥の餌やり、農作物の手入れや収穫、調理や飲食もする。村役を引き受け、学童通学路の挨拶運動に参加し、村の歴史を学び出石村史記を作成するのも楽しいかも知れない。そんな、お金で測れない、穏やかな田舎暮らしの夢を見ている。

「故郷の 初日に輝く 野良姿」但馬の国出石にて

## 同好会だより

### □俳句同好会

- ・と き 2月 7日(土) 13時～
- ・と ころ 職員会館2階 203号室
- ・兼 題 ふきのとう・余寒・当季雑詠
- ・その他 欠席の方は佐藤源太郎までご連絡下さい。

### □テニス同好会

- ・と き 2月12日・26日(木)  
午後1時～5時
- ・と ころ 神戸ローンテニス倶楽部  
神戸市中央区宮本通1-1-1  
Tel: 078-221-2383, 078-291-0809
- ・申込み 参加希望の方は阿部(078-792-0586)までご連絡下さい。

□男の料理教室同好会

- ・と き 2月14日(土) 13時30分～
- ・ところ 「むぎっこ」TEL 078-333-0628  
神戸市中央区下山手通3、シエンビル403号室
- ・会 費 3,000円(当日徴収)  
～1月の教室～

- ①鰯の紅白造り ②鰯のルイベ鍋 ③卵かまぼこ
- ④柚子大根 ⑤根菜の揚げ浸し ⑥柿なます

□ワイン同好会

- ・と き 2月20日(金) 18時10分～
- ・ところ ワインセラー「ヒラオカ」TEL 341-2563
- ・会 費 3,000円
- ・テーマ 天地人にちなんだワイン
- ・申込みは同封のハガキで。

□写真同好会 ～2月は例会～

- ・と き 2月21日(土) 13時～
- ・ところ 職員会館2階 203号室
- ・お願い 作品LL版5点以内持参
- ・追 伸 今年度最終例会となります。  
三月作品展の当番等、種々打合せを行いますのでよろしくお願ひ致します。

会 員 短 信

- 新会員 荒尾 和成  
〒651-0072 TEL 078-851-8020  
神戸市中央区脇浜町1-5-1-1306  
勤務先：尼崎商工会議所
- 住所変更 芦田 賢一 (名簿P1 37行目)  
〒658-0047  
神戸市東灘区御影2丁目15-18-204号
- 梅村 哲夫 (名簿P5 9行目)  
〒215-0036  
川崎市麻生区はるひ野4-19-1-315
- 関口 稔 (名簿P14 40行目)  
〒658-0047  
神戸市東灘区御影1丁目13-7-1
- 吉岡平太郎 (名簿P30 23行目)  
〒653-0037 TEL 078-641-1040  
神戸市長田区大橋町4-10-805

訃 報 謹んでご冥福をお祈りします。

森 正 さん 1月 4日 (79歳)  
尾松 茂 さん 1月 7日 (79歳)

第一五九回 颯 句 会 (平成二十一年一月十日、十三名、六十五句)

(兼題) 松の内、牛を詠む句を含め雑詠  
選者 盛岡 翠月

天 賞

牛の背の歌碑に偲ぶや今朝の春

安 平 純 月

(新年詠鑑賞) 牛の背の歌といえは勿論、「牛の背に我も乗せずや草刈女 春來三里はあふ人もなし」の歌。作者は但馬・諸寄出身の歌人前田純孝である。東の啄木、西の純孝とさえ称されたが三十一歳の若さで逝った。しかし、歌はこうして百年後の今日でも光彩を放つ。俳句力も大きい短歌の力も凄い。歌碑は東北、春來峠の道沿いにたつ。切ない待春の思いから呼んだ峠名であろうが難所であった。人は徒歩、牛は青草や荷を背に峠を越す。仔牛を売りに出す市場への別れの道にもなったであろう。当時から牛は農家の宝、それだけにこの地の人々は牛に精一杯の愛情を注ぎ、多くの名牛を全国に送り出してきた。折から今年は丑年、安平純月は忽ちこの歌が閃いた。純孝を偲び厳しい自然と対峙しながらも人情厚き但馬の地にまで思いを馳せ、新春の匂いたつ一句を得た。風土と人と牛を静謐に謳ってはいるが、県土愛入魂の郷土賛歌だ。名句名歌でなくてもよい、人は一生に一つ「わが心のうた」を作っておきたきもの。

地 賞

呑めぬ酒並べ客待つ三ヶ日  
松の内過ぎて月日を戻しけり  
直筆の丑と書かれし賀状かな  
かにかくに己丑の年明くる

人 賞

新玉の一念一字恕と墨書  
翠月の丑に学ぶや去年今年  
望郷とは鉛色かや寒紅梅  
祝盃の光芒零る松の内  
裏白を採るけもの道のぼり来て  
名刹や尋ぬる翁屠蘇を酌み  
力入れつくりしおせちつかの間に  
牛の句の賀状届くは友二人

森 田 精 歩  
谷 本 関 邑  
西 條 秋 泉  
佐藤げんたろう  
森 仙 游  
中 眞 木  
本 越 汀 藻  
打 本 碧 山  
藤 原 しまさお  
上 原 碧 山  
外 山 公 望